



札幌大学孔子学院
062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1

道民カレッジ連携講座

〔演題、講演要旨、講師紹介〕 孔子学院連続講座～現代中国の経済と社会を知る～

第2回 平成29年7月7日(金)16:30～

演題 : 中国の儒教復興—東アジアへの展望

講師 : 秦兆雄 しん ちようゆう Qin Zhaoxiong 氏

(神戸市外国語大学中国学科教授)

講演要旨 :

21世紀において、中国はどのような大国として発展し、周辺諸国及び世界とどのように相互に影響を受けあいながら共存共栄していくのだろうか。これは中国人を含む世界の人々にとって強い関心を引く問題である。この問いに対して、本講演は主に改革開放以後の儒教復興状況を取り上げ、中国の現状と行方を分析し、東アジアの相互理解を展望する試みである。

儒教は孔子を集大成とする宗教信仰・政治思想の体系である。即ち、祖先と天地などの「鬼神」を祭るという側面においては一種の宗教信仰であり、倫理道徳を説き、天下国家を論ずるといふ点からすれば一種の政治思想である。また儒教は、長い歴史の中で中国伝統文化の中核となり、社会秩序を維持し、中国人のアイデンティティを確立したばかりではなく、東アジア諸社会にも大きな影響を与えてきた。清朝末期と民国初期に起きた新文化運動時期に、儒教は陳独秀や魯迅らの急進的な知識人によって「近代化の障害物」として批判された。中華人民共和国成立後、孔子祭祀儀礼と儒学教育は禁止された。特に、文革時代には儒教思想は毛沢東の「革命の障害物」として全国レベルで徹底的に弾圧され、各地の孔子廟も閉鎖または破損された。また、孔子の塑像は毛沢東の肖像や石像などに取って代われ、儒教經典の代わりに『毛沢東語録』を全国民に拝読させた。

改革開放が進む中、文革時代の状況とは対照的な現象が起きた。儒教古典を基にした国学が「中華民族の優秀な伝統文化」として再評価され、各地の孔子廟は修復または再建され、孔子祭祀儀礼および儒教教育も復活した。2014年9月24日に北京人民大会堂で開かれた「孔子生誕 2565周年及び国際儒学联合会第五回会員・理事大会」の開幕式では習近平主席が講演を行ない、孔子および儒学を高く再評価した。また、2004年11月以後には中国政府は世界各地の教育機関と協力して孔子学院および孔子教室を相次ぎ設立し、2016年11月現在、140の国家に510の孔子学院がある。孔子と儒教は中国文化の象徴として社会全体を毛沢東時代以前の伝統へ回帰させつつ、前進させる原動力となる一方、国際社会に融合させながら、発信させる精神的な支えと智慧の源となっている。

講師略歴 :

1962年中国湖北省生まれ、1980年武漢大学哲学系入学(中退)、1982年3月に来日、金沢大学文学部卒業、東京大学大学院修士課程と博士課程終了(学術博士)。1995年4月に神戸市外国語大学中国学科の専任講師に着任、2009年4月から現職。国際儒学联合会理事。日中の家族・親族制度や儒教・仏教・神道思想などについてフィールド調査研究。

